

# 松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2016年9月1日 発行

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井直光

## With an open heart, we can learn how to stand in each other's shoes.

「オープンハートの心で我々は互いの気持ちを分かりあえるようになる。」(オバマ大統領)

米国各地で人種偏見による事件が相次いでいます。白人の警察官が無抵抗の黒人を殺害し、おそらくその報復なのでしょう。元軍人の黒人青年が白人警察官を射殺しました。人種偏見の問題と銃社会の問題の両方がクローズアップされています。亡くなった警察官の追悼集会に出席したオバマ大統領が追悼演説のなかで冒頭の一文を述べました。彼はすべての米国民に対して、人種の対立を解決するために互いの立場や気持ちを理解することを求め、「With an open heart (オープンハートの心で)」というフレーズを何度も繰り返しました。「オープンハートの心で我々は世界を互いの目で見つめなければならない。オープンハートの心で白人と黒人が敵同士などと言わずに和解を求め合わなければならない。オープンハートの心で白人も黒人も互いに過ちを正し、人種偏見を根絶させるという理想を実現しなければならない。」人種問題の解決のためには、相手には相手の見方、考え方、感じ方があることを理解すること、相手の視線によって物事を見ることが大切で、それを可能にするのがオープンハートの心だと言っています。オバマ大統領がこれまで「OPEN HEART」の言葉を演説で使用したことがあるかどうかはわかりませんが、米国大統領として初めて広島を訪問し、被爆者と握手し抱擁を交わした彼の心には、人間にとって「OPEN HEART」の心を持つことの意味が深く根付いているように感じます。

松蔭では神様に心を開き、接するあらゆる人に心を開くという「OPEN HEART」の言葉を大切にしています。わだかまりや先入観、偏見をもたず、相手の心や立場、考え方、思いも大切に相手の言葉に耳を傾ける。人種偏見を持たず、民族、宗教、国籍、文化の違いを認め、相手の存在を認め、尊重する姿勢はまさに「OPEN HEART」の心です。身近なところでは友人や家族の考え方や思いを尊重することも「OPEN HEART」の心です。また心身に障害を持つ人の生き方や思いを尊重し、全ての人々が普通に共生することも「OPEN HEART」の心により可能となるのではないのでしょうか。「OPEN HEART」はオバマ大統領の演説によって今や松蔭を越えて世界の言葉、全人類の言葉となったように思います。松蔭で学ぶ生徒たちは、根深い人種偏見ですら解決を可能にする「OPEN HEART」の心に日々触れています。現在接している友人にも、将来出会うかもしれない異なる民族や国籍、人種や宗教の人々に対してもこの心を持ち、また障害を持つ人と持たない人どうしも、この心で向き合えるようにしたいものです。松蔭の「OPEN HEART」はこれからの世界に通用する考え方だと誇ることができます。

## 2学期高校始業式 式辞より「オリンピック・パラリンピックに思う」

2学期の高校始業式では、2学期の学校生活での注意とともに日本のグローバル化について次のような話をしました。

夏休みにはリオ・オリンピックがあり、205の国家と地域から1万人を超える選手とスタッフ、各国の応援団がブラジル入りしました。日本選手団の活躍はめざましく、体操、卓球、柔道、レスリング、水泳など多くの種目でメダルを獲得したことは皆さんご存知でしょう。難民選手団という母国を離れなければならない選手たちの活躍の様子にも感動を覚えました。今月は引き続きリオ・パラリンピックが開催されるので、各国選手団の活躍を期待しています。

4年後には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本では1998年冬の長野オリンピックを含めて4回目の開催となります。皆さんの目の前に世界各国の選手が集まり競技を繰り広げる。今回出場したアーチェリーの林選手、シンクロの中村選手のように松蔭の卒業生が出場しているかもしれません。皆さんのなかには、ボランティアでスタッフや通訳として関わっている人もいます。想像するだけでワクワクしてしまいます。

今日は、これまでの3回のオリンピックと2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、日本の世の中や社会の様子が全く異なることになっている、ということをお話したいと思います。

「グローバル」とか「グローバル社会」「グローバル化」という単語を聞いたことがあると思います。日本は、このグローバル化が急激に進んでいることが20年前とはまったく異なっているのです。

先日神戸のハーバーランドに行くと、中国語や韓国語が飛び交っていました。奈良や京都の寺社では欧米やアジア各国からの観光客があふれています。今夏のニュージーランド語学研修生の見送りや韓国信明高校への訪問で伊丹空港や関西空港に何度も行きましたが、日本語が話せない外国人旅行者がスマホを片手にタクシーやバスを利用して宿泊するホテルに行こうとしている姿を多く見かけました。インバウンドと呼ばれる外国からの訪日者数は、皆さんが生まれた頃には年間約500万人でしたが、この数年で倍増し今年は2500万人近くになると予測されています。観光客だけでなく日本で働く外国人についても政府が規制を緩和して今後何百万人単位で増えていくと言われていきます。神戸市営地下鉄では数年前から新神戸駅到着の時には中国語と韓国語の車内放送が行われています。京都や奈良の駅や観光案内の表示には英語・韓国語・中国語が当たり前になっています。

逆に日本から海外で活動する人もどんどん増えています。東南アジアのタイでは、保護者の駐在で日本人小・中学校に通学する生徒が約7000名います。松蔭の生徒のなかからも、2学期より3名が保護者の方の海外転勤やバレー留学で日本を離れました。これがグローバル化ということです。皆さんは、このような状況がもっと進むなかで東京オリンピックを迎えるわけです。

世の中がグローバル化すると、そのなかで生きるあなた方一人一人もグローバル化しないといけなくなります。ではグローバル化の第一歩は何か。まずは言語です。コミュニケーションの道具として外国語を習得することです。中学卒業までに英検3級や準2級を、高校卒業までに英検2級合格を目標にして、合格後はTOEICなどにチャレンジして欲しいと思います。(裏面に続く)

みなさんの中には韓国語や中国語を学んでいる人もいます。ドイツ語を学んでいる人もいます。自分の興味や関心のある国の言語を積極的に学ぼうとすることが、グローバル化の第一歩です。そして言語の背景にあるその国の歴史や文化についても学んでみましょう。

次にグローバル化の第二歩めです。それは心構えです。自分とは異なる言語を母国語とする人は、自分とは異なる文化を持っています。異文化といいます。他人から自分のことを大切にしてほしいと願うのと同じで、他人の文化すなわち異文化を大切にすることを心掛けなければなりません。だからグローバル化の第二歩は心構えの問題なのです。オープンハートの精神で、偏見や先入観なく異文化や外国の人、異なる民族、人種の人々と、一人の人間として向き合ってもらいたいと思います。

東京オリンピック・パラリンピックでは、リオ・オリンピックよりも多くの国と地域からの人々を日本にお迎えすることになるでしょう。国内のグローバル化がさら進みますが、皆さん一人ひとりのグローバル化もしっかりとしていきましょう。(9月1日 2学期高校始業式 校長式辞より)

## 体育祭の準備      今年は各グループ色のTシャツで

体育祭を9月30日(金)に予定しています。生徒自身の手で学校行事を運営することはなかなか大変です。夏休み中には生徒会役員30名が猛暑のなか、準備のための一泊二日の合宿をしてくれていました。生徒の頑張りにはただただ頭が下がります。段取りを話し合い、やってみてまた調整して完成品に近づけていく。重ねる苦労が実を結び、当日は成功することを心から祈っています。

中高6学年の生徒が学年タテ割りで赤・青・黄・緑の4グループに分かれることは従来通りです。これまで各グループ色のうちだけでしたが、生徒会からの要望で各グループ色のTシャツをつくることになりました。当日は4色のTシャツがグラウンド一面にカラフルに花開くことでしょう。中学生による各グループの応援合戦にもとても期待しています。

## 車内マナーの徹底を

登下校中の電車やバス車内での生徒の様子についてお叱りの電話をいただくことがあります。松蔭生として、また中高校生として、そして一人の女性として自らの立ち居振る舞いに責任を持つことが求められています。ご家庭でもお子様への声掛けをお願いします。1学期末より下記各項目について学校全体の取り組みとして徹底することにしました。また、スマホを見ながら歩いたり、イヤホンで周囲の音が聞こえない状態で歩行していることが原因で事故が起っています。登下校途中だけでなく、日常の生活でもご注意ください。

- ・高齢者や妊婦、身体の不自由な方に「よろしければどうぞ」と声をかけ、席を譲ること。
- ・車内で飲食は決してしないこと。
- ・車内で大きな声で会話をしないこと。
- ・車内ではドアのところにかたまらないこと。
- ・周りの人に迷惑をかけないことを第一に考えること。
- ・歩きながらのスマホや、イヤホンで周囲の音が聞こえない状態で歩くことは禁止。